

令和7年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

指導	ブロッコリー夏まき作型における有望品種の適応性
【要約】 「スピードドーム 052」は定植時期にかかわらず可販収量が安定している。「トップスター」の生育はやや早い、「アーリーキャノン」の生育はやや遅く、8月第4半旬以降の定植ではA品率が高い。なお、品種にかかわらず、8月第1半旬定植では生理障害の発生率が高い、若しくは A品率が低い 傾向にある。	

1 背景とねらい

県内の一部地域において製氷機の導入が進んでおり、夏まきブロッコリーの栽培も拡大しつつあるが、近年の夏季高温により不整形花蕾やブラウンビーズなどの生理障害が減収の一因となっている。また、慣行品種や他品目との組み合わせによる作期拡大や規模拡大の需要もあり、可販収量の高い品種の選定が求められている。そこで、本県における夏まき作型での有望品種の適応性を明らかにする。

2 内容

品種別の定植時期、収穫盛期及び可販収量等を以下に示す（表1、表2）。

品種名	定植時期	定植後から		特性
		収穫盛期 までの日数 (日)	可販収量 (kg/10a)	
スピード ドーム 052	8月第1半旬	58	900	花蕾重が軽い 定植時期を変えても収量は安定
	8月第4半旬	56	900	8月第1半旬定植ではA品率が低い 8月第4半旬定植では高くなる
トップスター	8月第1半旬	54	1,300	定植時期にかかわらず、生育はやや早い
	8月第4半旬	53	950	8月第1半旬定植ではA品率がやや低い
アーリー キャノン	8月第1半旬	61	1,300	定植時期にかかわらず、生育はやや遅い
	8月第4半旬	61	1,100	8月第1半旬定植ではA品率が低い 8月第4半旬定植では高くなる

3 活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 県中南部及び沿岸部 農業普及員、JA営農指導員
- (2) 期待する活用効果 夏まきブロッコリーの品種選定の参考となる。

4 留意事項

- (1) 128穴セルトレイを用いたセル成型育苗、育苗日数は25日程度である。
- (2) 栽植密度は株間40cm、畝間70cm(3,571株/10a)である。
- (3) 品質及び規格は岩手県青果物等出荷規格を参考としたため、生理障害の許容程度については、出荷前に実需者と予め調整する。
- (4) 黒すす病の発生は見られなかった。
- (5) 品種選定にあたっては、各地域及び生産者の経営状況に応じて選択する。

5 その他

- (1) 関連する試験研究課題
(R5-01) ブロッコリー安定生産技術の確立 [R5~R7/県単]
- (2) 参考資料及び文献等
農業技術大系. 野菜編6 ブロッコリー基39. 農村漁村文化協会

6 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 定植から収穫までの日数（北上市）（R6、R7）

品種・系統名	8月第1半旬定植		8月第4半旬定植	
	収穫始期（日）	収穫盛期（日）	収穫始期（日）	収穫盛期（日）
スピードドーム 052	55	58	53	56
ジェットドーム	52	57	52	53
トップスター	50	54	53	53
アーリーキャノン	60	61	57	61
おはよう（慣行）	55	60	54	57
SK9-009（慣行）	58	58	58	61

注1) 1区20株2か年の平均値

注2) 収穫始期：10%の株が収穫可能になった定植からの日数、収穫盛期：50%の株が収穫可能になった定植からの日数

表2 定植時期別の各品種の収穫調査（北上市）（R6、R7）

定植時期	品種・系統名	可販 花蕾重 (g)	可販収量 (kg/10a)	A品率 (%)	発生割合 (%)			
					不整形 花蕾	ブラウン ビーズ	腐敗	リーフィー
8月 第1半旬	スピードドーム 052	278	918	20	3	5	0	0
	ジェットドーム	323	750	63	23	20	0	3
	トップスター	396	1,308	58	5	3	0	3
	アーリーキャノン	379	1,286	45	5	0	0	0
	おはよう（慣行）	350	1,187	53	5	0	0	0
	SK9-009（慣行）	392	1,330	65	5	0	0	0
8月 第4半旬	スピードドーム 052	267	930	63	3	0	0	0
	ジェットドーム	291	1,039	63	0	0	0	5
	トップスター	290	958	63	8	0	0	0
	アーリーキャノン	338	1,116	88	8	0	0	0
	おはよう（慣行）	313	1,090	75	3	0	0	0
	SK9-009（慣行）	372	1,295	85	3	0	0	13

注1) 1区10株2反復2か年の平均値

注2) 花蕾径10~12cmで収穫

注3) 生理障害・腐敗の発生割合には1株に対する重複を含む

注4) 単収：3,571株/10a×可販花蕾重(g)×10⁻³×可販株率(%) / 100

注5) ボトニング、不整形花蕾、ブラウンビーズ及び腐敗が発生した株を可販株から除外した

【担当】園芸技術研究部 野菜研究室